

令和2年度 定期総会議案書



令和元年度「トラクターに乗ったパンダ」を描いた田んぼアート

館腰地域まちづくり協議会

館腰地域まちづくり協議会 事務局
村上市岩沢 5611 電話 72-6881

まちづくりの理念

生きがいとふれあいに満ちた

心豊かな暮らしのあるまち 館腰

地域の将来像

- 一. 豊かな自然の恵みを活かし、若者からお年寄りまでが生きがいを持って働ける仕事がある
- 一. まちづくりの拠点が整備され、住民・集落同士の連携・交流が盛んに行われている
- 一. 地域の歴史資源・伝統文化を活用した観光・交流の取り組みが行われている
- 一. 地域の歴史・伝統文化を住民一人一人が継承すると共に、次世代に伝える仕組みができている
- 一. 若者の定住・移住が増え、人と自然への思いやりを大切にした暮らしが営まれている

第 1 号議案

令和元年度事業報告及び収支決算の承認について

令和元年度事業報告及び収支決算について、別紙のとおり承認を求めます。

令和 2 年 4 月 14 日提出

令和元年度 事業報告書

区分	事業名、取組項目	実施時期	対象・人員	取組内容	効果・課題等
産業振興部会	(1)産業振興事業				
	①たてこし軽トラ市	8/11(日) 10/20(日)	地域内外 4店、250人 4店、6,000人	軽トラ市を通じて、農家の生産・販売意欲の向上と消費者との交流を図り、地域の賑わいを創出する。(10月20日はあさひまつりの中で実施)	猛暑の影響でスイカやメロン農家の出店ができず昨年に比べ来場者、出店者が減少した。まち協で出店した半殺し焼きと焼肉は完売し、今後は内容の工夫と出店者の確保が課題。
	②田んぼアート	6月～10月 田植え 6/8(土) 直売所開設、ライトアップ 7/25(日) 稲刈り 9/28(土)	地域内外 延1,000人 48人 56人 35人	地域の水田を活用して田んぼアートを制作し、観光資源を創出し、地域の魅力を発信する。住民が一体となって取り組み、連帯感の醸成を図り、各イベントの開催により地域外との交流を拡大する。	2年目を迎え、ロコミでの来訪者も増え、地域を大きくアピールするとともに、地元集落の協力を得て新たにライトアップを実施し、交流を深めることができた。今後もぜひやってほしいとの書き込みや励ましの声にこたえられるよう継続していきたい。
交流活動部会	(1)住民交流事業				
	①料理講習会	1/26(日)	学区内 30人	料理講習会や調理体験を通じて、地域住民の交流・親睦を深めるとともに、料理の知識や楽しさを広める。	フルーツロールケーキ作りを通じて、交流を深めることができた。三面地域から親子での参加者もあり、楽しい時間を過ごしていた。出来上がったケーキもとてもおいしく、ケーキ作りの知識も広げることができた。
	②あいさつ運動の実施	4月～10月、 月1回、毎月10日	小川小学校 児童ほか	あいさつを通じて、学校・家庭・地域が連携して地域の子供たちの健全育成に貢献するとともに、地域住民への普及啓発を促す。	児童との交流を通じて児童の健全育成に貢献することができた。まち協が参加していることを周知し、より多くの先生方や保護者が参加するように学校と検討協議する。
	③交流拠点の確保について	通年	地域内	将来の交流拠点の確保を見据えながら、高齢者や子育て世代などの交流の場を広げる事業を検討する。	具体的な事業の実施には至らなかったが、交流の場を広げる事業について引き続き検討する。
	④田んぼアート昼食交流会	田植え 6/8(土) 稲刈り 9/28(土)	地域内外 48人 35人	田んぼアートの田植え稲刈りイベントに併せて、昼食の提供など交流事業を実施し親睦を深める。	地元の熊登集落民とまちづくり協議会、参加者で昼食を囲み、クジ引きなどのアトラクションも行つて交流を深めることができた。

区分	事業名、取組項目	実施時期	対象・人員	取組内容	効果・課題等
歴史文化部会	(1) 歴史文化継承事業				
	①「わたしたちのたてこし VOL.2」の検討	通年	地域内	地域の歴史などの資源調査を行い、まちづくり通信に紹介する。資料の蓄積を行いながら第2弾となる冊子の発行を検討する。	まちづくり通信に地域の歴史資料を掲載し、資料の周知と蓄積を進めることができた。今後は冊子の発行を見据えた資料の蓄積と調査が必要と考えられる。
	②熊登さくら 並木健康 ウォーク	4/15(日)	地域内 60人	地域の歴史学習に健康づくりの要素も取り入れ、事業内容の充実を図る。	親子での参加も多く、熊登地内の歴史スポットを解説を交えながら巡り、地域の歴史を伝えることができた。満開の桜並木のウォーキングと減塩の食事を囲み親睦を深めることもできた。
総務広報部会	③竹の活用 「竹あかりたてこしの夕べ」	9/7(土)	地域内外 182人	地域に多く植生する「竹」を活用したイベントを行い、地域の魅力の再発見と地域資源の活用を図る。小川小学校の校庭に竹灯籠を作成し、学校との連携と交流を促進する。	小川小学校の児童保護者、学校と連携して取り組みを進めることができた。事前に開催した竹灯籠づくり体験の作品も展示し、会場の雰囲気づくりにも工夫した。今後三面川太鼓の参加などを検討し、学校や児童との連携を深めていきたい。
	(1) 情報発信事業				
	①情報紙の発行	27～30号 6/15 9/15 12/15 3/15	全世帯 小中学校 事業所ほか	まちづくり協議会の取り組み状況や地域の話題などを紹介するまちづくり通信を発行する。	まちづくり協議会の活動への理解と周知を進めることができた。さらに興味を引くように紙面や内容を工夫し、事業に合わせてタイムリーな内容になるよう発行日を検討する。
	②ホームページ等の活用	通年	地域内外	まち協の取り組み状況や地域の話題などをホームページやフェイスブックで発信し紹介した。	地域外への情報発信に有効であり、内容等について見やすいように工夫する。
	③集落活性化支援事業	通年	11集落	集落の取組み事業に対して補助金を交付して支援を行った。	集落の交流事業の促進を支援することができた。
	④課題解決の研究	通年	地域内	空き家調査を行い、空き家の現状と困りごとを把握しながら、課題を見出していく。	空き家調査を通じて、15年から20年後には空き家が現在の約2倍に増えることが予測できた。空き家の増加は人口減少に伴うことから、人口減少による地域の問題や課題について研究を進めることも必要である。

区分	事業名、取組項目	実施時期	対象・人員	取組内容	効果・課題等
協議会 全体	(1)人材育成事業				
	①先進事例の調査研究	11/23(土)	18人	三面・塩野町地域まちづくり協議会と合同で、中越大震災で被災した旧山古志村を訪れ、災害時の助け合いや復興後の状況について視察研修した。	中越大震災後のまちづくりについて、山古志地区を視察研修し、地域の結束力が、災害時やその後の復興を支える力になったことを実感することができた。三面・塩野町まち協との懇親を深めることもできた。
	(2)地域おこし事業				
	①地域おこし協力隊との連携		地域内外	長津地区での地域おこし協力隊(集落支援員)の受入れについて支援する。	12月から募集しているが、現在は未着任。
	②連携事業の実施				
	・あさひフォトコンテスト	7/1～8/30 (募集期間)	32点 (応募者数)	朝日地区をテーマにした写真コンテストを開催し、表彰、展示を行った。	地域の魅力の再発見につながっているが、昨年に比べ応募点数が減少しているため、増加の取組が必要。中学生の応募が増えるよう学校と連携していきたい。
	・研修事業	8/3(土)	10人(朝日地区)	まちづくり円卓会議に参加し、まちづくり協議会が抱える課題や今後必要となる支援の仕組みについて意見交換を行った。	参加者が少なかったため、地域課題に対する認識を持ってもらうことが必要。
	・あさひまつり	10/20(日)	約6,000人	あさひまつりで郷土料理(半殺し焼き)を出店し、325本を販売した。	地域の郷土料理とともにまち協の取組をPRすることができた。
	・広報紙の発行	12/1(日)	地域内外	朝日地区内のまちづくり協議会の活動を周知する広報誌を全世帯に配布した。	まちづくり協議会の活動を周知しPRすることができた。
	・森林環境教育促進事業	通年	朝日中学校	朝日中学校の学校林の整備に助成金による支援を行った。	朝日中学校の森林環境プログラムを支援し、生徒の森林環境教育に貢献した。
	・朝日地区地域包括ケア	通年	地域内外	朝日互近所ささえ～る隊の会議メンバーとして参画し、地域包括ケア事業との連携協力に努めた。	長津地区に「地域の茶の間」が設立されるなど介護予防の取組みにつながった。

様式第5号(規則第13条関係)

令和元年度 館腰地域まちづくり協議会収支決算書

収入

単位: 円

区分	決算額	予算額	比較	説明
1 地域まちづくり交付金	2,400,000	2,400,000	0	村上市より
2 繰越金	504,596	504,596	0	前年度繰越金
3 繰入金	0	100,000	△ 100,000	
4 雑入	123,040	95,404	27,636	イベント参加費19,900円、軽トラ市出店料・イベント・冊子売上金103,134円ほか
5 寄付金	92,524	0	92,524	田んぼアート寄付金59,250円、募金33,274円
合計	3,120,160	3,100,000	20,160	

支出

単位: 円

区分	事業	決算額	予算額	比較	説明
1	産業振興経費[産業振興部会]	994,684	1,150,000	△ 155,316	軽トラ市122,766円、田んぼアート774,201円、あさひまつり97,717円
	1 産業振興事業				
2	交流活動経費[交流活動部会]	100,043	180,000	△ 79,957	田んぼアート昼食交流会62,143円、料理講習会37,900円
	1 住民交流事業				
3	歴史文化経費[歴史文化部会]	104,188	140,000	△ 35,812	健康ウォーク25,206円、竹の活用事業75,302円
	1 歴史文化継承事業				
4	総務広報経費[総務広報部会]	201,416	232,000	△ 30,584	まちづくり通信作成印刷費(4回)
	1 情報発信事業				
5	集落活性化支援経費	330,000	330,000	0	助成金30,000円×11集落=330,000円
	1 集落活性化支援事業				
6	組織運営経費	829,050	1,048,000	△ 218,950	
	1 報償費	386,500	480,000	△ 93,500	総会出席者(代議員・役員)43,000円 役員報償(年額)148,000円 役員報償(会議イベント等出席)195,500円
	2 旅費	0	1,000	△ 1,000	
	3 需用費	117,386	160,000	△ 42,614	会議用お茶、事務用品、封筒印刷、食糧費ほか
	4 役務費	47,630	60,000	△ 12,370	振込手数料、送料
	5 使用料及び賃借料	54,036	100,000	△ 45,964	視察研修バス借上料、会場借上料
	6 備品購入費	96,498	120,000	△ 23,502	スライド丸ノコ1台
	7 負担金	127,000	127,000	0	朝日地区まちづくり協議会連絡会議負担金
7	積立金	0	0	0	
	1 積立金				
8	予備費	0	20,000	△ 20,000	
	1 予備費				
合計		2,559,381	3,100,000	△ 540,619	

収入合計 3,120,160 支出合計 2,559,381 次年度繰越金 560,779 円

積立金

名称	増加	減少	現在高	説明
田んぼアート運営基金	102		1,200,179	令和2年3月28日積み増し(預金利息)

積立金台帳

積立金の名称	田んぼアート運営基金				
積立の目的	田んぼアート事業運営のため				
積立開始年 月日	平成30年3月28日				
積立終了年 月日	令和3年3月28日				
保有方法	定期貯金（にいがた岩船農業協同組合）				
異動年月日	異動事由	増加額	減少額	現在高	備考
H30. 3. 28	新規			900, 000	
H31. 3. 28	積み増し	300, 077		1, 200, 077	
R2. 3. 28	積み増し	102		1, 200, 179	

備品台帳

No.	分類	物 品	規 格	購入日	価 格	購入先	保管場所
1	写真・光学 器具類	デジタル カメラ①	EXILIM Z680	H24.4.20	12,285	(資)ほんぼ	地域振興課 事務室
2	写真・光学 器具類	デジタル カメラ②	EXILIM Z680	H24.4.20	12,285	(資)ほんぼ	地域振興課 事務室
3	写真・光学 器具類	デジタル カメラ③	EXILIM Z680	H24.4.20	12,285	(資)ほんぼ	地域振興課 事務室
4	写真・光学 器具類	デジタル カメラ④	EXILIM Z680	H24.4.20	12,285	(資)ほんぼ	地域振興課 事務室
5	その他	ワイヤレスア ンプ	WA-1812CD	H26.2.19	188,790	(資)ほんぼ	地域振興課 事務室
6	写真・光学 器具類	デジタル4K ビデオカメラ	HC- VX980M-W	H28.3.23	86,400	(資)ほんぼ	地域振興課 事務室
7	写真・光学 器具類	デジタル一眼 レフカメラ	NIKON D-5500	H29.2.17	101,700	(有)スズキ カメラ	地域振興課 事務室
8	机・テーブ ル	折りたたみ長 机	ニシキ PET-1850	H29.8.10	95,904	(資)ほんぼ	長津研修 センター
9	厨房器具	ガス炊飯器	リンナイ RR30S1-F	H30.9.26	33,480	(資)ほんぼ	朝日支所 物品庫
10	機械器具 類	スライド丸ノ コ	C12RSH2 A1	R1.8.20	96,498	マツダ金属 (株)	長津研修 センター

以下余白

令和元年度 集落活性化支援事業一覧

集落名	事業名／実施日	事業の内容・効果	事業費(円)	交付額(円)
大場沢	どんと焼き ／1月12日(日)	(内容) 竹、藁でやぐらを組み、正月飾りなどを焼き、招福、厄払いを行った。区民約50人が参加し、お神酒やお菓子、みかんや甘酒のふるまいを行った。 (効果) 子どもから大人の区民が集まり、親睦と融和を図ることができた。	55,000円	30,000円
古渡路	しめ縄づくり ／8月25日(日)	(内容) 集落の薬師神社烏居に奉納するしめ縄の製作を行った。 (効果) 今年から20代から70代の17人で古渡路しめ縄保存会を結成し、地域の伝統と文化を継承しまちづくりに貢献することができた。	35,462円	30,000円
小川	納涼祭 ／8月10日(土)	(内容) 地域住民やお盆の帰省客等を含め、80名ほどが参加した。焼きそば、綿あめ、かき氷を各60人分や飲み物を無料でふるまった。全員参加のくじ引き大会と子ども向け花火を行った。 (効果) 子どもから親、祖父母や帰省客の参加もあり、思い出話で会話がはずみ集落の一体感が深まった。近隣の子どもたちや帰省の子どもたちも参加し、顔と名前がおぼえられ、地域の連携に効果があった。	67,212円	30,000円
十川	第4回 収穫祭 ／11月10日(日)	(内容) 集落住民約60名が参加してそば打ちと餅つきを行い、参加者全員で食事を実施した。子どもたち中心のもちつきと班ごとにそば打ちを行った。 (効果) 集落の各組長を中心に実行委員会を組織して役割分担を決め、当日は各組長を中心にスムーズに実施することができた。もちつきやそば打ちでは、参加者の笑い声が絶えず楽しくコミュニケーションを深めることができた。また、区長から「朝のあいさつ」に積極的に取り組もうとのお話もあり有意義な1日を過ごすことができた。	46,860円	30,000円
下新保	豊年おどり ／8月15日(木)	(内容) 区民と帰省客が参加して豊年おどりを開催し、子どもたちに水ヨーヨーを配布したり、参加者に生ビールやジュースをサービスした。地域の茶の間のメンバーに踊りの講師を依頼して練習時間を設け初めての人も踊りに参加でき、参加者の一体感を醸成できた。 (効果) 子どもが少なくなる中で、久しぶりに子どもたちの元気な姿を見ることができた。子どもの参加が増えたことで親の参加も増えて集落を盛り上げることができた。	125,079円	30,000円

集落名	事業名	事業の内容・効果	事業費	交付額
平雲杭揚 笹瑞釜小	長津地区敬老会 ／9月10日(日)	(内容) 長津地区敬老者77名に参加案内し、来賓を含め36名の参加を得た。敬老者による恒例のカラオケ大会を実施。当日はスタッフを含め約52名が参加した。 (効果) 普段近くにおいても交流ができない等、合同で実施することにより昔話に花を咲かせる事ができ、今後の生きがいとすることができた。	186,676円	40,000円
	長津地区運動会 ／6月9日(日)	(内容) 地域住民と新潟大学の学生の約120名の参加により、集落対抗でレクリエーション(運動会)を実施し、地域の連携と絆を深めた。 (効果) 地区住民の融和が図られ、小川小学校の校長先生の参加と新潟大学の学生の協力を活かして地域の連携と盛り上りを図ることができた。	102,597円	60,000円
	長津地区地域の茶の間 ／4月中旬～3月中旬	(内容) 年間を通じて行われている各集落の地域の茶の間に茶菓子代を助成した。各集落で1回あたり3人～15人の参加者があった。 (効果) 朝日地区地域包括ケアの一環である地域の茶の間は、軽運動やおしゃべりをするこ	20,000円	20,000円
熊登	空き缶拾い、観桜会、敬老会 ／4月21日(日)	(内容) 空き缶拾いには子どもたちを含め15人が参加し、観桜会・敬老会では30人が参加して恒例のバーベキューを行った。敬老者にはお祝いに紅白まんじゅうを配布した。 (効果) 空き缶拾いによって集落内の景観美化が図られた。また、子供から高齢者まで集落住民の親睦がはかられ、地域の安心・安全なまちづくりに効果をあげた。	41,191円	30,000円
あけぼの	第6回 あけぼの納涼祭 ／9月1日(日)	(内容) 集落内の子供からお年寄りまで全員を対象とする納涼祭を実施した。BBQ、焼きそば、かき氷、子ども向けの風船ヨーヨー、スーパースクールなどを行い、56名が参加した。 (効果) 昨年と同様に防災訓練と同日に開催したことで参加者も多く、準備もスムーズにできて大いに親睦を図ることができた。PTA及び老人会と協力して事業を盛り上げ、年齢に関係なく参加者全員が楽しむことができた。継続事業として来年につなげる	91,976円	30,000円

監 査 報 告 書

館腰地域まちづくり協議会規約第 17 条第 2 項の規定に基づき、令和元年度館腰地域まちづくり協議会事業報告書、収支決算書について監査を実施しましたので報告します。

監査の結果

- (1) 収入支出の証拠書類及び預金通帳を照合した結果、誤りなく適正に処理していると認めます。
- (2) 事業報告書は、館腰地域まちづくり協議会の事業運営の状況を正しく示しているものと認めます。

令和 2 年 3 月 2 0 日

監事

島田 幸男



監事

石栗 克也



第2号議案

令和2年・3年度館腰地域まちづくり協議会役員（案）の承認について

令和2年・3年度館腰地域まちづくり協議会役員について、別紙のとおり承認を求めます。

令和2年4月14日提出

館腰地域まちづくり協議会役員(案)

令和2年度～令和3年度

No.	役 職	氏 名	選 出 集 落	備 考
1	会 長	忠 隆 司	釜 杭	
2	副 会 長	吉 村 和 昭	大 場 沢	
3	副 会 長	島 田 弘 子	あけぼの	
4	事 務 局 長	佐 藤 良 夫	小 揚	
5	理 事	高 橋 一 栄	大 場 沢	
6	理 事	貝 沼 二 美 子	大 場 沢	
7	理 事	山 田 紀 和	古 渡 路	
8	理 事	野 村 正 剛	古 渡 路	新任
9	理 事	石 栗 一 成	小 川	
10	理 事	高 田 京 子	小 川	新任
11	理 事	高 橋 文 明	十 川	
12	理 事	高 橋 順 子	十 川	新任
13	理 事	小 田 輝 子	下 新 保	
14	理 事	谷 井 勝 也	下 新 保	新任
15	理 事	小 田 紳 哉	下 新 保	新任
16	理 事	小 池 幸 栄	笹 平	
17	理 事	中 山 靖 夫	笹 平	
18	理 事	小 池 良 紀	瑞 雲	新任
19	理 事	鈴 木 て い 子	瑞 雲	
20	理 事	齋 藤 純 市	釜 杭	
21	理 事	齋 藤 奈 穂 美	小 揚	
22	理 事	渡 辺 良 雄	熊 登	
23	理 事	貝 沼 ひ ろ み	熊 登	新任
24	理 事	高 橋 慎	あけぼの	
25	監 事	島 田 幸 男	下 新 保	
26	監 事	中 山 久 一	大 場 沢	新任

第3号議案

令和2年度事業計画（案）及び収支予算（案）の承認について

令和2年度事業計画及び収支予算について、別紙のとおり承認を求めます。

令和2年4月14日提出

令和2年度 事業計画書(案)

区分	事業名、取組項目	実施時期	対象・人員	取組内容	備考
産業振興 部会	(1)産業振興事業				
	①たてこし 軽トラ市	8月上旬 10月18日 (日)	地域住民ほか	軽トラ市を通じて、生産者、出 店者と消費者との交流を広げ、 地域の賑わいを創出し、交流を 拡大する。(10月18日はあさひ まつりの中で実施)	継続
	②田んぼ アート	6月～10月 田植え 直売所開 設、ライ トアップ 稲刈り	地域住民ほか 6月7日(日) (予定) 7月24日 (金)・25日 (土) (予定) 9月下旬頃	地域の水田を活用して田んぼ アートを制作して観光資源を創 出し、地域の魅力を発信する。 その中で、住民が一体となって 取り組み連帯感の醸成を図り、 各イベントの開催により地域外 との交流を拡大する。	継続
交流活動 部会	(1)住民交流事業				
	①料理講習会	1月下旬	地域住民ほか	料理講習会や調理体験を通じ て、地域住民等の交流・親睦を 深めるとともに、料理の知識や 楽しさを広める。	継続
	②あいさつ 運動の実施	4月～10月 (4回程度)	小川小学校児 童ほか	あいさつを通じて、学校・家 庭・地域が連携して地域の子供 たちの健全育成に貢献するとと もに、地域住民のコミュニケー ションを図る。	継続
	③交流拠点 の確保につ いて	通年	地域住民	将来の交流拠点の確保を見据え ながら、高齢者や子育て世代な どの交流の場を広げる事業を検 討する。	継続
	④田んぼ アート昼食 交流会	6月～10月 田植え 稲刈り	地域住民ほか 6月7日(日) (予定) 9月下旬頃	田んぼアートの田植え稲刈りイ ベントに併せて、昼食の提供な ど交流事業を実施し親睦、交流 を図る。	継続
歴史文化 部会	(1)歴史文化継承事業				
	①「わたし たちのたて こしVOL. 2」 の検討	通年	地域住民	地域の歴史などの資源調査を行 い、まちづくり通信に紹介す る。資料の蓄積を行いながら第 2弾となる冊子の発行を検討す る。	継続
	②歴史 ウォーク	6月中旬	地域住民ほか	地域の歴史学習にウォーキング などの健康づくりの要素も取り 入れ、参加者の増加を図る。	継続
	③竹の活用 「竹あかり たてこしの タペ」	9月12日 (土)	地域住民ほか	地域に多く植生する「竹」を活 用したイベントを行い、地域の 魅力再発見と地域資源の活用を 図る。小川小学校の校庭に竹灯 籠を作成し、学校との連携と住 民の交流を図る。	継続

区分	事業名、取組項目	実施時期	対象・人員	取組内容	備考
総務広報部会	(1) 情報発信事業				
	① 情報紙の発行	31～34号 4回発行	全世帯 小中学校 事業所ほか	まちづくり協議会の取り組み状況や地域話題などを紹介するまちづくり通信を発行する。	継続
	② ホームページ等の活用	通年	地域内外	ホームページやフェイスブックを活用してまちづくり協議会の取り組み状況や地域話題などを紹介する。	継続
	③ 集落活性化等支援事業	通年	全集落 小川小学校	集落の取り組みを支援し、各集落の更なる元気づくりを進める。児童の健全育成を進めるため小川小学校の朝日三面川太鼓の活動を支援する。	継続
	④ 課題解決の研究	通年	地域住民	空き家の現状や高齢者の見守りや困りごとを把握しながら、課題を見出していく。	継続
協議会全体	(1) 人材育成事業				
	① 先進事例の調査研究	未定	協議会役員等	三面地域まちづくり協議会と合同で、先進地事例の調査研究や研修視察を行い、まちづくりを担う人材を育成する。	継続
	(2) 地域おこし事業				
	① 地域おこし協力隊(集落支援員)の配置	未定	地域住民	長津地区での地域おこし協力隊(集落支援員)の受入れについて支援する。	継続
	② 連携事業の実施			他のまちづくり協議会等と連携して事業を実施し、交流の拡大と効果的な事業を推進する。	継続
	・ あさひフォトコンテスト	7月～8月 (募集期間)	地域住民ほか	朝日地区をテーマに写真コンテストを開催し、地域の魅力発見につなげる。	
	・ 研修事業	未定 3回シリーズ	協議会役員等	これまでのまちづくり協議会の検証とこれからの朝日地区のまちづくり協議会のあり方を考える。	
	・ あさひまつり	10/18(日) (予定)	地域住民ほか	地域の一体感を醸成するとともに、協議会の活動をPRする。	
	・ 広報紙の発行	12月	地域住民	協議会の活動を周知し、理解と関心を高める。	
	・ 朝日地区地域包括ケア	通年	地域内外	朝日互近所ささえ～る隊のメンバーとして参画し、地域包括ケア事業に協力、地域での支え合い活動のPRに努める。	
	・ 朝日地区地域会議	通年	地域内	朝日地区地域会議のメンバーとして参画し、地域課題の解決に係る事業に協力する。	

令和2年度 館腰地域まちづくり協議会収支予算書（案）

収 入

（単位：円）

区 分	本年度	前年度	比 較	説 明
1 地域まちづくり交付金	2,393,000	2,400,000	△ 7,000	村上市より
2 繰越金	560,779	504,596	56,183	前年度繰越金
3 繰入金	0	100,000	△ 100,000	田んぼアート事業繰入
4 雑 入	106,221	95,404	10,817	軽トラ市出店料・売上金、わたしたちのたてこし販売代、料理講習会参加料、あさひまつり売上金、貯金利息ほか
5 寄付金	40,000	0	40,000	田んぼアート寄付金、募金
合 計	3,100,000	3,100,000	0	

支 出

（単位：円）

区 分	事 業	本年度	前年度	比 較	説 明
1 産業振興経費 [産業振興部会]		1,130,000	1,150,000	△ 20,000	軽トラ市（2回）180千円、田んぼアート800千円、あさひまつり150千円
	1 産業振興事業				
2 交流活動費 [交流活動部会]		180,000	180,000	0	料理講習会50千円、田んぼアート交流会110千円、あいさつ運動20千円
	1 住民交流事業				
3 歴史文化経費 [歴史文化部会]		140,000	140,000	0	歴史ウォーク30千円、竹の活用事業110千円
	1 歴史文化継承事業				
4 総務広報経費 [総務広報部会]		232,000	232,000	0	まちづくり通信の発行202千円 地域課題調査 30千円
	1 情報発信事業				
5 集落活性化等支援経費		355,000	330,000	25,000	30,000円×11集落、 朝日三面川太鼓25,000円（新規）
	1 集落活性化等支援事業				
6 組織運営経費		1,043,000	1,048,000	△ 5,000	
	1 報償費	460,000	480,000	△ 20,000	総会出席者70千円、役員年額150千円、役員会議出席150千円、役員活動90千円
	2 旅 費	1,000	1,000	0	（視察）旅費
	3 需用費	160,000	160,000	0	消耗品費、食糧費補助等
	4 役務費	58,000	60,000	△ 2,000	振込手数料、送料
	5 使用料及び賃借料	100,000	100,000	0	（視察）バス借上料、有料道路使用料
	6 備品購入費	110,000	120,000	△ 10,000	
	7 負担金	154,000	127,000	27,000	朝日地区まちづくり協議会連絡会議負担金154,000円（総額614,000円×交付金割合25.1%）
7 積立金		0	0	0	
8 予備費		20,000	20,000	0	
合 計		3,100,000	3,100,000	0	

収支差引き残高 0円

予算の流用については会長に一任する

館腰地域まちづくり協議会規約

平成24年 3月18日制定

(目的)

第1条 本会は、地域の個性や課題に応じた活性化対策を館腰地域に暮らす住民がお互い知恵を出し、協力し合い、生きがいとふれあいに満ちた心豊かな暮らしのある地域をつくることを目的とする。

(名称)

第2条 本会は、館腰地域まちづくり協議会と称する。

(事務所)

第3条 本会の主たる事務所は、村上市岩沢5611番地「村上市朝日支所」内に置く。

(事業)

第4条 本会は、第1条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 地域の課題解決、地域振興及び住民交流に関すること。
- (2) 健康及び福祉の増進に関すること。
- (3) 安全及び安心に関すること。
- (4) 環境の保全及び改善に関すること。
- (5) 地域資源の有効活用に関すること。
- (6) 地域の産業振興に関すること。
- (7) コミュニティビジネス等地域経営に関すること。
- (8) その他、まちづくりに関し、特に必要なこと。

(構成)

第5条 本会は、館腰地域に居住する人及び館腰地域で事業を実施する個人若しくは法人又は館腰地域で活動する各種団体（以下、構成員）をもって構成する。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 事務局長 1名
- (4) 専門部正副部長 若干名
- (5) 理事 25名以内
- (6) 監事 2名

2 会長、副会長、事務局長は、役員会において選出し、総会の承認を得るものとする。

- 3 理事及び監事は、構成員の中から区長会が「別表」により選出する。ただし、監事の選出については、総会の承認を得るものとする。

(役員の職務)

第7条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故その他やむをえない事情により職務を遂行できないときは、その職務を代行する。
- 3 事務局長は、本会事務及び会計を総括する。
- 4 専門部正副部会長は、本会の運営を補佐し、各専門部会の事業を総括する。
- 5 理事は各専門部の事業に参画する。
- 6 監事は、本会の事業及び会計の執行状況を監査し、総会に報告する。

(役員の任期)

第8条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

- 2 補欠により選出された役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(代議員)

第9条 代議員は会長が委嘱する。

- 2 代議員は、本会の構成員の中から区長会が「別表」により選出する。
- 3 代議員は総会において、役員会が提案する議題を審議し、議決する。
- 4 代議員の任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。
- 5 補欠により選出された代議員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 6 役員は、代議員になる事ができない。

(会議)

第10条 本会の会議は、総会、役員会及び専門部会とする。

(総会)

第11条 総会は、代議員をもって構成する本会の最高議決機関であり、本規約に定める事項のほか、本会の目的を達成するために必要な事項を審議決定する。

- 2 総会は、通常総会及び臨時総会とし、会長が招集する。
- 3 通常総会は、毎年度1回以上開催し、臨時総会は、会長が必要と認めたとき、又は、代議員の2分の1以上の請求があった場合に開催するものとする。
- 4 総会は、委任状を含めた代議員の2分の1以上の出席により成立する。
- 5 総会の議長は、会長が行うものとする。
- 6 総会の議事は、代議員の過半数で議決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 7 総会は、この規約に定める事項のほか、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 地域まちづくり計画の策定及び変更に関すること。
- (2) 規約の制定及び改正に関すること。
- (3) 役員の承認に関すること。
- (4) 事業計画、事業報告、予算及び決算に関すること。
- (5) その他、重要事項に関すること。

(総会の議事録)

第12条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 代議員の現在数及び出席者数（表決委任者を含む）
 - (3) 開催目的、審議事項及び議決事項
 - (4) 議事の経過の概要及びその結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録は、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印し、事務所に備え付けておかなければならない。

(役員会)

第13条 役員会は、総会に付議する事項及び本会の運営に関する事項を審議、決定する。

- 2 役員会は、会長、副会長、事務局長及び理事をもって構成し、会長が必要に応じ招集し、議長となる。
- 3 役員会は、構成する役員の2分の1以上の出席により成立するものとする。

(専門部会)

第14条 専門部会は、総会で決定された方針に基づき事業を実施するものとし、次の専門部会を設置する。

- (1) 産業振興部会
 - (2) 交流活動部会
 - (3) 歴史文化部会
 - (4) 総務広報部会
- 2 専門部会は、本会の構成員で構成する。
 - 3 専門部会には、部会長及び副部会長を置く。
 - 4 部会長は、部会を代表し会務を総括する。
 - 5 副部会長は、部会長を補佐し、部会長が事故あるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代行する。
 - 6 専門部会は、必要に応じて部会長が招集する。

(事務局)

第15条 本会の円滑な運営及び事業実施に資するため、事務局を置く。

- 2 事務局には、事務局長及び事務局員を置く。
- 3 事務局長は、会務及び会計を掌握する。
- 4 事務局員は、事務局長を補佐し、本会の事務及び会計事務を処理する。

(会計)

第16条 本会の運営等に係る経費は、地域まちづくり交付金、会費、寄付金及びその他収入をもって充てる。

- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 3 年度開始後に予算が総会において議決されていない場合においては、会長は、総会において予算が議決される日までの間は、前年度の予算を基準にして収入支出をすることができる。

(監査)

第17条 会長は、事業年度終了後、事業報告書、収支決算書及び積立金台帳を作成して監事に提出し、その監査を受けなければならない。

- 2 監事は、前項の書類を受領したときは、これを監査し、監査報告書を作成して会長に報告するとともに、会長はその監査報告書を総会に提出しなければならない。

(規約の変更)

第18条 この規約は、総会において総会出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することはできない。

(書類及び帳簿の備付け)

第19条 本会の主たる事務所には、本会の事業実施に係る書類、収入及び支出に関する証拠書類並びに帳簿等活動に関する全ての書類を備え付け、公開するものとする。

(個人情報保護の取扱い)

第20条 本会が各種取組みを推進するため必要とする個人情報の取得、利用、提供及び管理については、適正に運用するものとする。

(その他)

第21条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、会長が役員会に諮り、別に定める。

附 則

この規約は、平成24年 3月18日から施行する。

この規約の変更は、平成31年 4月 1日から施行する。

別表

1、代議員の選出について

- ・代議員は、1月1日の住民基本台帳の世帯数により、下表のとおり選出する。

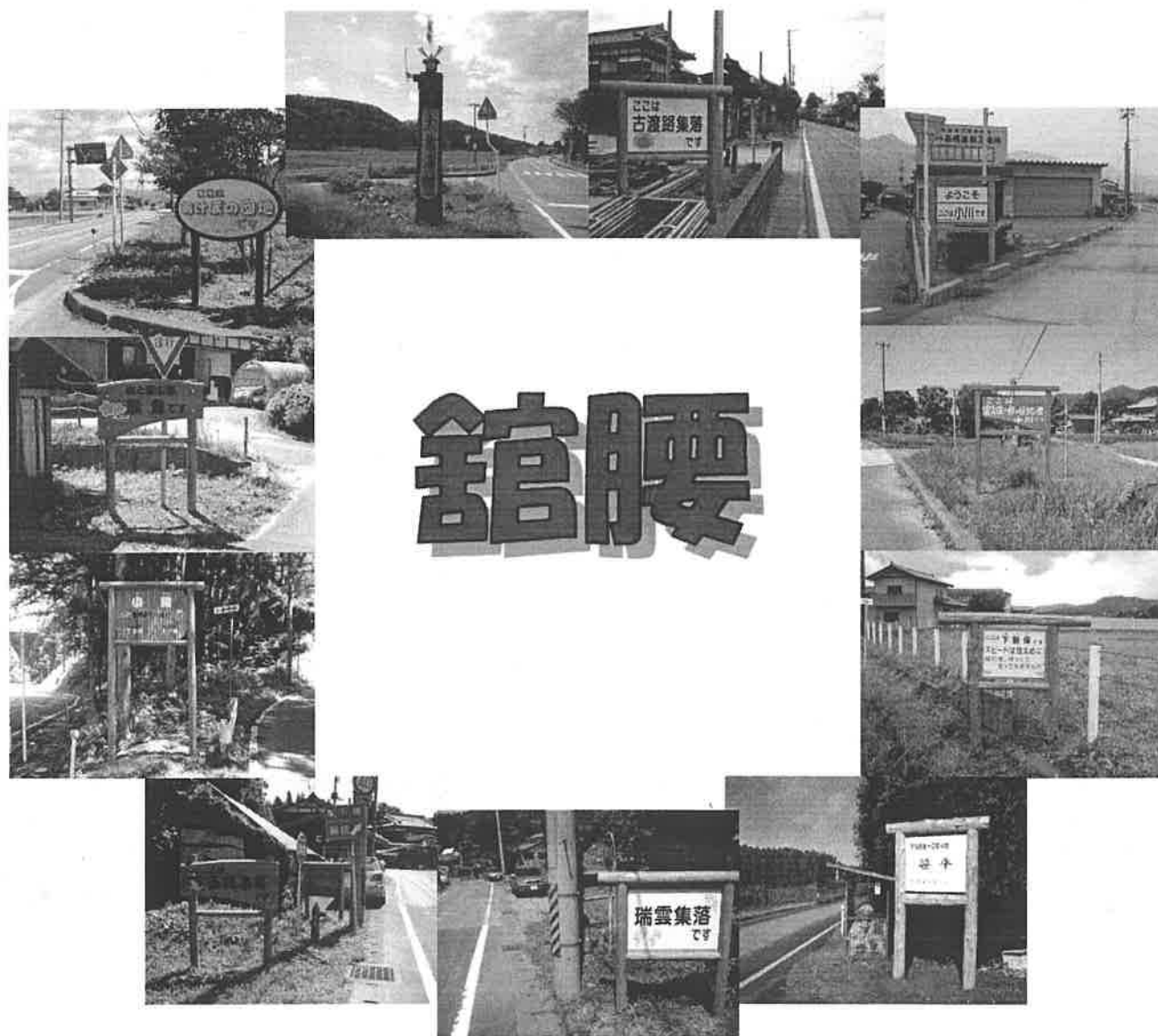
集 落	世帯数	50世帯に1名	基本2名	代議員数
大場沢	110	2	2	4
古渡路	88	1	2	3
小 川	100	2	2	4
十 川	55	1	2	3
下新保	155	3	2	5
笹 平	41	0	2	2
瑞 雲	19	0	2	2
釜 杭	12	0	2	2
小 揚	30	0	2	2
熊 登	14	0	2	2
あけぼの	67	1	2	3
計	691	18	22	32

2、理事、監事の選出について

- ・理事は、1月1日の住民基本台帳により、集落の世帯数が100世帯以下は2人、101世帯以上は3人とする。
- ・監事は100世帯以上の集落から選出し、下新保から常時1名、大場沢、小川から任期ごとに交互に選出する。

集 落	人 口	世帯数	理事数	監事数
大場沢	312	110	3	(1)
古渡路	244	88	2	
小 川	315	100	3	(1)
十 川	188	55	2	
下新保	511	155	3	1
笹 平	157	41	2	
瑞 雲	67	19	2	
釜 杭	32	12	2	
小 揚	99	30	2	
熊 登	37	14	2	
あけぼの	179	67	2	
計	2,141	691	25	2

館腰地域まちづくり計画



『 生きがいとふれあいに満ちた 心豊かな暮らしのあるまち 館腰 』

平成24年3月18日
(平成29年4月16日変更)

館腰地域まちづくり協議会

館腰地域まちづくり計画

1 地域の特色、課題

館腰地域は朝日地区の南部に位置し、三面川左岸の平坦地に小川、古渡路、あけぼの、大場沢、十川、下新保の6集落、長津川沿いに熊登、笹平、瑞雲、釜杭の4集落、小揚川沿いに小揚集落があり、山間部から平坦地まで11集落が点在しています。熊登遺跡、中平遺跡など縄文時代の遺跡からもわかるとおり、この地域には古くから脈々と人々が暮らしてきました。各集落がムラとして生活してきたものが、明治22年の町村制施行により、館腰村、長津村となり、明治34年に両村が合併し、館腰村ができました。昭和29年の合併により朝日村、平成20年の合併で現在の村上市となっています。

館腰地域は三面川、支流長津川がつくる肥沃な大地で稲作を中心に農業が行われてきたが時代とともに年々農業者数は減少しています。国勢調査による人口の推移は朝日地区全体では昭和30年に19,184人だったものが平成22年には10,623人となり約45%減少し、館腰地域においても3,551人いた人口が2,384人まで減少しています。道路交通網は年々整備され、地域内を国道7号、県道高根村上線、鶴岡村上線が貫通し交通の要所となっています。平成23年には日本海東北自動車道が朝日地区まで開通し、当地域には朝日三面インターチェンジが完成しました。

各集落では盆踊りや公民館活動など伝統的な行事が継承されていますが、雇用の場の減少、少子高齢化、人口の減少などに伴う担い手の減少により、地域活動の維持が困難となってきています。

こうしたことから、今後のまちづくりの原動力となるコミュニティ活動を活性化させるため、住民・集落同士の交流を進め、地域の自然環境や伝統文化を再認識し、住民一人一人が生きがいを持ち、支え合う連帯感のある地域社会を形成する環境づくりが必要となってきています。

2 地域のまちづくりの理念、将来像（目標年度：平成33年度）

『生きがいとふれあいに満ちた 心豊かな暮らしのあるまち 館腰』を理念にかかげ、次の5つの将来像を達成するために、住民と行政が一体となったまちづくりを進めます。

- ・豊かな自然の恵みを活かし、若者からお年寄りまでが生きがいを持って働ける仕事がある。
- ・まちづくりの拠点が整備され、住民・集落同士の連携・交流が盛んに行われている。
- ・地域の歴史資源・伝統文化を活用した観光・交流の取り組みが行われている。
- ・地域の歴史・伝統文化を住民一人一人が継承すると共に、次世代に伝える仕組みができています。
- ・若者の定住・移住が増え、人と自然への思いやりを大切にした暮らしが営まれている。



3 具体的な取組みの方向性、実施事業等（計画年度：24 年度～33 年度）

基本方針	取組みの方向性や実施する事業
住民同士の交流を活発化させる	●地域あげて住民同士の交流行事を開催する ●地域住民が集い・交流する拠点をつくる ●集落行事や団体活動を支援する
地域の歴史や風土などの魅力を次世代に継承する	●地域の歴史や伝統文化、食文化などを次世代に伝える ●地域資源の利用促進に取り組む
地域資源を活用して産業の振興を図る	●地域の特産品や農産物を販売する仕組みをつくる ●地域資源を活かした観光集客イベントを企画し、地域外との交流を積極的に行う
地域情報や活動内容などの発信を行い、積極的な住民参加を促す	●地域住民向けの広報紙を発行する。 ●インターネットを活用し、館腰の魅力や地域の情報を積極的に外部に PR する。
支え合いの心をはぐくみ、住みやすい生活環境を保持する	●地域の課題解決に向けた研究を行い、対策事業の実施に結び付ける
他団体との連携を強化し、交流拡大と効果的効率的な事業を推進する	●他のまちづくり協議会等との連携を強化する。 ●地域おこし協力隊の受け入れを促進し、隊員との連携を強化する。

4 事業計画年度（実施年度：24 年度～33 年度）

基本方針	事業項目	実 施 年 度									
		24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
住民同士の交流を 活発化させる	交流事業の開催										
	交流拠点の確保										
	集落行事等への支援										
地域の歴史や風土 などの魅力を次世 代に継承する	歴史伝統、食文化の伝承										
	地域資源の利用促進										
地域資源を活用し て産業の振興を図 る	地域農産物の販売										
	観光交流イベントの開催										
地域情報や活動内 容などの発信を行 い、積極的な住民 参加を促す	情報紙の発行										
	インターネット等の活用										
支え合いの心をは ぐくみ、住みやす い生活環境を保持 する	課題解決の研究										
他団体との連携を 強化し、交流拡大 と効果的効率的な 事業を推進する	連携事業の推進										
	地域おこし協力隊等との 連携										

館腰地域まちづくり協議会
令和2年度 代議員名簿（敬称省略）

No.	氏 名	選 出 集 落	No.	氏 名	選 出 集 落
1	本 保 賢 次	大 場 沢	17	本 間 敦	下 新 保
2	五十嵐 信 栄	大 場 沢	18	小 田 友 昭	下 新 保
3	貝 沼 正	大 場 沢	19	小 田 輝	下 新 保
4	貝 沼 勝 男	大 場 沢	20	斎 藤 一 栄	笹 平
5	菅 井 正 義	古 渡 路	21	中 山 栄	笹 平
6	木 村 正 實	古 渡 路	22	小 池 幹 夫	瑞 雲
7	須 貝 修	古 渡 路	23	小 池 越 也	瑞 雲
8	長 谷 部 由 栄	小 川	24	阿 部 辰 栄	釜 杭
9	菅 井 和 栄	小 川	25	阿 部 修 一	釜 杭
10	藤 原 巧	小 川	26	齋 藤 和 幸	小 揚
11	長 谷 部 千 弘	小 川	27	佐 藤 寛	小 揚
12	石 栗 法 明	十 川	28	本 間 昭 平	熊 登
13	小 野 薫	十 川	29	島 田 與 一 郎	熊 登
14	高 橋 勉	十 川	30	磯 部 優	あけぼの
15	島 田 清 輝	下 新 保	31	佐 藤 隼 人	あけぼの
16	谷 井 正 和	下 新 保	32	遠 山 遼	あけぼの

館腰地域まちづくり協議会 役員名簿(案)

令和2年度～令和3年度

敬称省略

No.	役 職	所属部会	氏 名	選 出 集 落	備 考
1	会 長		忠 隆 司	釜 杭	
2	副 会 長	(歴史文化部会)	吉 村 和 昭	大 場 沢	
3	副 会 長	(交流活動部会)	島 田 弘 子	あけぼの	
4	事務局 長		佐 藤 良 夫	小 揚	
5	理 事	産業振興部会長	高 橋 一 栄	大 場 沢	
6	理 事	産業振興部会	貝 沼 二 美 子	大 場 沢	
7	理 事	総務広報部会	山 田 紀 和	古 渡 路	
8	理 事	産業振興部会	野 村 正 剛	古 渡 路	新 任
9	理 事	歴史文化部会	石 栗 一 成	小 川	
10	理 事	歴史文化部会	高 田 京 子	小 川	新 任
11	理 事	交流活動部会長	高 橋 文 明	十 川	
12	理 事	交流活動部会	高 橋 順 子	十 川	新 任
13	理 事	交流活動部会	小 田 輝 子	下 新 保	
14	理 事	産業振興部会	谷 井 勝 也	下 新 保	新 任
15	理 事	産業振興部会	小 田 紳 哉	下 新 保	新 任
16	理 事	交流活動部会	小 池 幸 栄	笹 平	
17	理 事	総務広報部会	中 山 靖 夫	笹 平	
18	理 事	総務広報部会	小 池 良 紀	瑞 雲	新 任
19	理 事	歴史文化部会	鈴木 てい子	瑞 雲	
20	理 事	歴史文化部会長	齋 藤 純 市	釜 杭	
21	理 事	総務広報部会	齋 藤 奈 穂 美	小 揚	
22	理 事	産業振興部会	渡 辺 良 雄	熊 登	
23	理 事	産業振興部会	貝 沼 ひ ろ み	熊 登	新 任
24	理 事	総務広報部会長	高 橋 慎	あけぼの	
25	監 事		島 田 幸 男	下 新 保	
26	監 事		中 山 久 一	大 場 沢	新 任

事務局（市担当職員）

1	事 務 局	富 樫 秀 之	朝日支所地域振興課自治振興室
---	-------	---------	----------------

田んぼアートへのご寄付ありがとうございました

— 地域の未来を拓く —
Construction Company
YOKOI
株式会社 横井組
〒958-0269
新潟県村上市古渡路600番地
TEL(0254) 53-7880 (代) FAX(0254) 53-7886
E-mail:mail@yokoigumi.co.jp
URL:http://www.yokoigumi.co.jp

REC
理光電機株式会社

 丸八建設
丸八建設株式会社

彩る
朝日印刷
朝日印刷株式会社
〒958-0269
新潟県村上市古渡路1699-1
TEL:0254(53)3619 FAX:0254(53)3719
E-mail:asa-p@coral.ocn.ne.jp

 JA にいがた岩船 朝日支店

新潟県公安委員会公認
 村上中央自動車学校

 Sale And Maintenance Service **SAMS**
新車 中古車販売・車検・法点・飯金塗装・損害保険代理店
有限会社 **サムスオート村上**


信頼と安心
株式会社 **アイ・サポート**

朝日郵便局長
五十嵐 昌幸 様

木村 ミヨ子 様

石栗 千恵子 様